

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



日本LD学会会報 第61号

事務局：〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル3F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-3318

URL. <http://www.soc.nii.ac.jp/jald/>



お力添えをお待ちしています

宮川医療少年院

小栗 正 幸

宮川医療少年院は、少年院版の養護学校である。我が国には、医療少年院の名称で呼ばれている施設が四つある。このうち二つは心身の著しい故障への治療（医療措置課程）を行う施設であり、残りの二つは、少年院における特殊教育課程を担う施設である。当院は後者に該当する施設で、矯正教育の守備範囲は、知的障害者及び知的障害者に準じた処遇が必要な非行少年、または情緒的未成熟等によって、社会的不適応が著しいため、専門的な治療教育を必要とする非行少年である。

さて、その宮川医療少年院であるが、私は新しく入ってくる子ども全員に会って、IEPを作成するためのアセスメントを行っている。もちろん、当院に送致される子どもは、既に少年鑑別所の段階で、知的障害や広汎性発達障害などの診断を受けているケースが多く、たとえ未診断であっても、ほとんどの子どもは大なり小なり発達障害の兆候を有している。しかも、学習能力に特異的な発達上の欠陥があるなど、LDの兆候を合併している子どもが非常に多い。

いうまでもなく、知的障害のある子どもにLD

というのはおかしい。しかし、知的障害だけでは説明できない音韻処理能力の弱さが、デコーディングに影響を与えているケースが散見されるし、そもそも、文字記号を音声化して、その意味を理解する力の発達に関しては、劣悪な環境要因の影響を含めたとしても、困った状態にある子どもが多すぎるのである。しかも、彼らは非行化するまで、必要な支援はおろか、発達障害の兆候にすら気付かれていないことが多い。ましてや、学業不振に関して、LDの視点からアセスメントを受けたのが、今回が最初であったことを知れば知るほど、私は複雑な気持ちになってしまうのである。

私の仕事は、今からここで新しい教育プログラムを作り上げることである。そのためにも、会員のお力をぜひともお借りしたい。意のある先生方は、〒519-0504、三重県伊勢市小俣町宮前25、宮川医療少年院、電話0596-22-4844まで御一報願いたい。県内・県外を問わず特別支援教育士の方々からの御連絡もお待ちしている。どうぞよろしく。